

2019 年 4 月 11 日

参加団体各位

公益財団法人日本太鼓財団

## 第 21 回日本太鼓ジュニアコンクール演奏の審査講評について

このたび、第 21 回日本太鼓ジュニアコンクールの演奏に関する審査講評を下記のとおり取りまとめましたのでご通知いたします。

今大会の予選は、全国の 43 支部及び北海道・東北・九州の地区コンクール並びにブラジル、台湾における大会に出場した 509 団体、5,180 名により実施されました。その中から選出された合計 40 都道府県・3 地区代表 59 団体に、ブラジル、台湾と前年度優勝団体が参加して、福島県郡山市のけんしん郡山文化センターにおいて 2,000 名を超える満員の観客を前に行われました。さらに、今年も大会の模様をインターネットによりライブ配信したことにより日本国内のみならず世界各国においても多くの皆様に視て頂くことができました。

この講評内容は、審査委員の評価に加えて技術委員が演奏技術と課題曲における正確さや表現力、自由曲における創造性など、全委員の意見を技術委員会で取りまとめたものです。各団体がこの講評を参考に、今後も益々精進されることを期待しております。

### 記

#### 1. 総評

(1) 第 21 回大会は、福島県では 5 年ぶりの開催となりました。太鼓界の将来を担うジュニアの皆さんが、日ごろの練習の成果を発揮し、力強い演奏を披露していただき、一段と高いレベルの演奏で、優劣をつけ難い大会となりました。大会の成績に関わらず、全国大会に出場したことが優秀な証明であり、各団体にとって大きな財産になることを確信しております。今後とも、結果にこだわらず、礼節を重んじ、他の団体の模範として活躍されますよう期待いたします。

また、今大会では太鼓の指導者を目指して JICA 日系研修員受入事業で来日していたブラジルの太鼓研修生 6 名が大会の進行を勉強するためにスタッフとして参加し、今回の経験をブラジルのコンクールに活かしたい話していたのが印象的でした。

(2) 演奏に関しては、全体的に技術の向上が感じられました。ただ、ここ数年指摘されている大音量での演奏、音楽に関係ないパフォーマンス、しっかりとした音を出せない笛を入れるなどの点で、改善が感じられなかったのは残念でした。

4 分間という短い演奏の中で、長々と笛を使うことは太鼓のコンクールにおいてはマイナス材料となります。また、据え置きの大平太鼓、抱え桶、笛を多用する団体が多かったように見受けられましたが、前回大会で成績の良かった演奏を参考にするよりも、団体の個性や地域性を活かすような演奏を期待しております。音量を工夫し、ゆったりとした演奏を心がけると別の世界が見えると思います。最近、太鼓の数量が多くても効果に疑問を感じるチームが目立ちます。太鼓の数量を増やして賑やかにすれば良いわけではありません。演奏上、必要としない太鼓は逆効果になりますので注意して下さい。

今大会では、スムーズな入退場ができない団体が見受けられたのは残念でした。普段から練習などでもスムーズな進行が出来るようにして下さい。また、団体名紹介後の演奏前に無駄と思える動作が見受けられました。過度の動作は、減点の対象となりますので留意して下さい。

課題曲は一定のテンポで打つように指示されていましたが、不安定なテンポの団体が多かったのは残念でした。1分の指定でしたが、テンポがふらつかないように心がけて下さい。

自由曲では、4分の時間の中で色々な表現をしようとする団体が多く見られましたが、何を表現したいのか理解に苦しむような構成は逆効果になりますので、気をつけて下さい。

伝統的な太鼓や地域性を活かした演奏が増えてきたのは喜ばしい傾向ですが、笛に頼るより太鼓で自然な流れになるように工夫して欲しいと思います。

(3) 衣裳については、太鼓演奏の妨げになるような団体が少なくなったようです。これからは衣装で加点されることはありませんので、清潔でジュニアらしい衣装を心がけて下さい。また審査は、審査員や観客の受けを意識した演奏より、太鼓に向かう真摯な態度を評価しますので、留意して下さい。

(4) 大会翌日の特別講習会は、養父太鼓「鼓彩」(兵庫)、青山高等学校和太鼓部「葵」(三重)、そしてブラジルのドラセーナ清心太鼓、そして福井農林高校の指導者が参加されました。国内チームは古屋邦夫技術委員長、海外チームは長谷川義先生から基本を確認しながらの指導を受け、受講生からは大変良かったとの声が多く聞かれました。財団の講習会は、個人を対象としており、団体を対象とした講習会は現在のところジュニアコンクールの時だけです。指導者にとっても指導方法を学ぶ大変良い機会ですから、今後とも多くの参加を期待します。

(5) 今大会は、15回目となるブラジルと、9回目となる台湾が出場しました。ブラジルチームは、昨年9月にブラジルのサンパウロ市で13団体125名が参加して行われた第15回全ブラジルジュニア太鼓選手権大会において見事に優勝した「ドラセーナ清心太鼓」です。課題曲に続いて自由曲「祖先の苦労」を見事に披露され特別賞を受賞されました。先人たちの苦労を偲び当時の雰囲気表現されていました。台湾チームは、昨年12月に25団体260名が参加して台中市に近い苗栗縣で行われた第9回台湾太鼓ジュニアコンクールで優勝した「柏齡(ぼうりん)太鼓團」が初出場されました。今大会では、課題曲に続いて自由曲「挑戦」で素晴らしい演奏を披露して頂き特別賞を受賞されました。海外チームの皆さんは、日本のジュニア達のレベルの高い演奏を目の当たりにしてとても良い勉強となり、今回の経験を活かして頑張りたいとの意欲を示していました。ブラジルチームは大会終了後、群馬と埼玉のブラジル人学校を訪問し演奏を披露いたしました。

なお、東北6県による「東北太鼓ジュニアコンクール」と九州7県により行われている「全九州・日本太鼓ジュニアコンクール」、5支部の代表団体による「北海道ジュニアコンクール」からそれぞれ1団体が全国大会出場を果たすなど地区単位での大会が盛んになり、レベルが向上したことは嬉しく感じます。

また、台湾大会と全九州大会での優秀チームが相互の大会に特別出演されたことも交流事業として有意義なことと思います。

## 2. 審査委員並びに技術委員について(敬称略)

### (1) 審査委員

審査委員長 塩見 和子 (財団理事長)  
 審査委員 石井 秀弦 (津軽三味線石井流家元)  
 岡田 知之 (公益社団法人日本吹奏楽指導者協会会長)  
 喜 多 郎 (音楽家)  
 河野 成久 (一般社団法人日本マーチングバンド協会公認指導員)  
 長谷川 義 (財団副会長)  
 古屋 邦夫 (財団技術委員会委員長)

### (2) 技術委員

鈴木 孝喜、高野 右吉、田中 俊己、西川恵美子、  
 安江 信寿、山内 強嗣、山部 泰嗣、渡辺 洋一

## 3. 演奏内容について

参考のため出場全団体の講評をお送りします。  
 別紙の講評コメントを参照して下さい。

## 4. 審査結果について

優 勝・内閣総理大臣賞	和太鼓たぎり (福岡)
準優勝・総務大臣賞	手取亢龍若鮎組 (石川)
文部科学大臣賞	神洲八幡巫太鼓 (福岡)
第3位・福島県知事賞	神洲八幡巫太鼓 (福岡)
第4位・郡山市長賞	やまばと太鼓 (秋田)
第5位・福島県教育委員会教育長賞	橘太鼓「響座」ジュニア (宮崎)
特別賞	
郡山市教育委員会教育長賞	柏齡太鼓團 (台湾)
郡山商工会議所賞	沼垂小学校 万代太鼓 鼓助 (新潟)
公益財団法人郡山コンベンションビュロー賞	天城連峰太鼓 (静岡)
福島民報社賞	輪島・和太鼓 虎之介 (石川)
福島民友新聞社賞	太鼓研修センター「響」(宮崎)
東北太鼓連合賞	おおむら太鼓連くじら太鼓 (長崎)
日本太鼓財団福島県支部・福島県太鼓連盟賞	
株式会社浅野太鼓楽器店賞	熊本市立必由館高等学校 和太鼓部 (熊本)
株式会社宮本卯之助商店賞	ドラセーナ清心太鼓 (ブラジル)
諏訪響太鼓店賞	院内童龍太鼓 (大分)
ブラジル太鼓協会賞	東京都立美原高等学校和太鼓部「和心響華」(東京)
台湾太鼓協会賞	院内童龍太鼓 (大分)
国際友好賞	不知火太鼓 (佐賀)
国際友好賞	ドラセーナ清心太鼓 (ブラジル)
国際友好賞	柏齡太鼓團 (台湾)